

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「正しい選択をするために」



人は1日に約9,000回の選択をしていて、その選択のほとんどは無意識に近いといわれています。朝目覚めて、すぐに起き上がるのか？それとも二度寝をするのか？、朝ごはんは何を食べるのか？そもそも食べるのか？、朝ごはんを食べたら着替えるのか？歯磨きをするのか？トイレに行くのか？

朝起きてから選択の連続であり、あげればきりがありません。常によい選択ができれば最高の1日になります。そんな最高の1日を繰り返せば、最高の1週間になります。最高の1週間で繰り返せば、最高の1か月になります。最高の1か月に繰り返せば、最高の1年になります。最高の1年を繰り返せば、最高の人生になります。つまり、最高の人生にしたいならば、「今」が重要ということになります！

本人及び保護者は、小学校の就学にあたり、通常の学級か？特別支援学級か？あるいは、進路決定にあたり、一般高校か？特別支援学校高等部か？大きな選択をしなければなりません。本人及び保護者が説得されて動くのではなく、納得して選択するためには、普段の活動の様子などの「ありのままの情報」、検査結果や学習状況といった「客観的な情報」、先生方の知識と経験に基づく「生きた情報」を提供する必要があります。情報が人を動かし、正しい選択につながります。



〈進路選択で大切なこと〉

- 1 自分で選ぶ・・・自分で選んだという意識があれば頑張りが利く
- 2 目的がある・・・目的があれば辛くても努力ができる、粘れる
- 3 自分を知る・・・自分の強みを生かして、弱みをカバーできる



とれたて直送便



「文科省調査 小・中学生 8.8% (約80万人)」

通常の学級に通う公立小・中学校の児童生徒の8.8%に発達障害の可能性があると発表されました。10年前の前回調査から2.3ポイント上昇し、35人学級なら1クラスに約3人が読み書き計算や対人関係などに困難があることとなります。調査は今年1月～2月、全国の公立小・中学校と高等学校の通常の学級に在籍する児童生徒を抽出し、学級担任を中心にチェックシートを基に回答した結果をまとめたものです。

小学校で10.4%、中学校で5.6%、高等学校で2.2%となり、学年が進むごとに割合が下がる傾向になっています。文科省は「発達障害の児童生徒が増加したのではなく、教員の理解の深まりが増加につながっている」と説明しています。高等学校のポイントが低い要因として、進学に伴い特別支援学校高等部を選ぶ生徒がいるためと分析しています。調査に関わった有識者からは、「校内委員会の検討自体がなされていない可能性がある。外部機関に教員が支援を相談しやすい体制づくりも必要だ」、「読み書きなどの学習障害は早期に見付けて授業を工夫したり、通級指導教室につなげたりすることで改善するケースが多い」というコメントが掲載されています。今後10年間、8.8% (約1.1人に1人) が、発達障害を語る際の一つの基準となります。